

スポーツ未来開拓会議「中間とりまとめ」骨子素案（たたき台）

2016年4月5日

<1>我が国スポーツ産業の推進に向けた基本的考え方（方針）

- スポーツを通じて社会を豊かにし、子どもたちの夢を形にするビジョンを提示。
- 「体育」から「スポーツ」へ
- スポーツ産業の潜在成長力の顕在化、我が国基幹産業化へ
 - ・我が国 GDP 600兆円の実現
 - ・「モノ」から「コト」（顧客価値、カスタマー・エクスペリエンス）へ
 - ・スポーツをコアとして周辺産業に波及効果を生む、新スポーツ産業の創出
- ポスト2020年を見据えた、スポーツで稼ぎその収益をスポーツへ再投資する自律的好循環の形成
 - ・「負担（コストセンター）」から「収益（プロフィットセンター）」へ

<2>スポーツ産業の需要拡大について

- スポーツ市場の現状（国内、海外）
- スポーツ市場規模の拡大（2020年、2025年）
- スポーツ産業のデータ整備にかかる課題（※今後の対応方針）
 - ・市場規模、経済波及効果、標準産業分類に「スポーツ産業」を追加（P）
 - ・スポーツ産業規模の計測手法の整理等

<3>個別テーマの課題・方向性について**1. スタジアム・アリーナの在り方について**

- 我が国スタジアム・アリーナの現状
- 諸外国のスタジアム・アリーナの動向
- 今後のスタジアム・アリーナの施設整備のあり方
 - ・収益モデルの確立（コストセンターからプロフィットセンター化へ）
 - ・スタジアム・アリーナを核とした街づくり（スマート・ベニュー構想）
 - ・民間資金の活用、公民連携の促進（PPP、PFI等の活用等）
 - ・施設の整備に向けたガイドラインの策定、官民連携協議会の立ち上げ

2. スポーツコンテンツホルダーの経営力の強化、新ビジネス創出の促進

- アマチュアスポーツ団体等の経営力の強化とガバナンスの向上

- ・ 高校・大学スポーツの資源（施設、人材等）の活用
- ・ アマチュアスポーツ大会等へのビジネス手法の積極的導入等

- プロスポーツのさらなる収益拡大に向けたビジネスモデルの確立
 - ・ 競技価値の最大化に向けたリーグと球団運営の取組の充実
 - ・ 地域特性、種目に応じた地域密着型ビジネスモデルの確立・普及
 - ・ グローバル化の推進（スポーツコンテンツ、球団経営等の海外展開等）

3. スポーツ人材の育成・活用

- 経営人材の育成・確保
 - ・ 官民連携によるスポーツ分野経営の即戦力となる人材育成実践型プラットフォーム、カリキュラム等の確立
 - ・ スポーツ MBA の創設に向けた取組
- アスリートのセカンド・デュアルキャリアの支援

4. 他産業との融合等による新たなビジネスの創出

- 我が国スポーツ教育の仕組み（施設・運営、指導等）を海外へ総合輸出
- 我が国スポーツ用品等の高い技術力を生かした海外展開の促進
- スポーツとテクノロジーの融合による新たなビジネスの創出
 - ・ VR、センシング技術等の活用による新市場の創出
- 他分野（健康、食、医療、観光、ファッション等）との融合による新たなスポーツサービス業の創出

5. スポーツ参加人口の拡大

- スポーツ実施率向上に向けた取組
 - ・ 子ども時代からスポーツを楽しむ環境整備（部活の活用等）
 - ・ 女性、障害者、高齢者等々のスポーツ参加支援

< 4 > 今後の方向性について

- 本会議は、夏以降引き続き個別課題ごとのワーキング等様々な形で議論を重ね、スポーツ基本計画の改定を見据えて、本会議にて平成28年度内を目途に新・スポーツ産業ビジョンとしてとりまとめていく予定。

以上